

学問と信仰の調和

—メソジスト運動とジョン・ウエスレーの思想から—



副院長・大学宗教学主任
シュエー士戸 ポール
Paul Tsuchio Shaw

青山学院正門そばの像は、メソジスト運動の創立者であるジョン・ウエスレーです。青山学院はメソジスト運動を通して生まれており、本学院の歴史・建学の精神・教育方針などを思い起こすために、正門を通る全ての人が、ウエスレーからの象徴的な祝福を受けることは相応しいことだと思えます。ウエスレーがメソジスト教会の創設者であり、牧師でもあることは、本学院の関係者の間でよく知られていることでしょう。しかし、このウエスレーにとって、学問と理性がどれほど重要であったかについてはそれほど知られていないと思います。

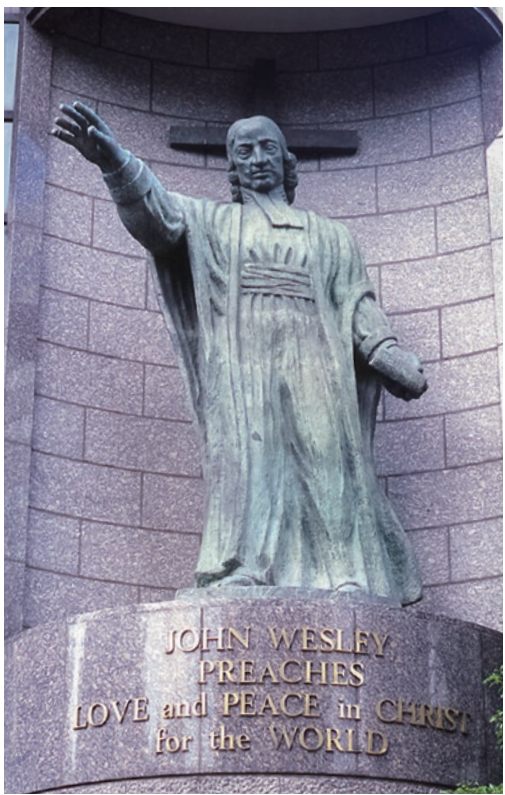
学問と信仰

ウエスレーは、次のように教えました。「Unite the two so long divided, knowledge and vital piety.」長く分離されていた学問と敬虔な信仰を結合させよ。この場合、knowledge は単なる知識だけではなく、学問を意味します。ウエスレー本人は、学者であり、教育者でもありました。ウエスレーは、若い時、当時最も優れていた高等教育をオックスフォード大学で受け、学部を卒業してからは研究員となり、大学で教鞭をとりました。牧師になつてからも、学問と教育の重要性を強調しました。

ウエスレーが関わった多くの活動の中で、学問と教育が中心となりました。ウエスレーは、英国各地域で一般の住民を対象とする少人数の集会制度を始めますが、参加者が自ら聖書を読むことができるようになるための教育も必要になりました。一般の労働者や農民の教養が高まるように、ウエスレーは古典文学を読みやすく編集し、定期刊行物として出版しました。運動が成長し始めると指導者が不足し、参加者から指導者を育成することが必要になったため、大学教育に相当する牧師養成カリキュラムを作り、それを徹底的に実施しました。

現代、信仰と理性が矛盾すると考える人がいますが、ウエスレーの考えはその反対でした。ウエスレーによると、健全なキリスト教信仰が理性を育み、また、その信仰を正しく理解するために、理性が必要とされるのです。ウエスレーの説教、「The Case of Reason Impartially Considered」が理性の重要性を取り上げています。そこには、理性の定義を始めとし、理性の利点と限界とが論理的に述べられています。18世紀は理性の時代と言えるほど、理性が高く評価されてきました。啓蒙思想が流行し、新しいニュートン学説を通して自然世

界に対する科学的研究が盛んでした。キリスト教の牧師、そして学者として、ウエスレーは信仰の世界において理性の重要性を取り上げました。当時も、理性とキリスト教信仰が矛盾すると誤解する人々がいました。ウエスレーは、理性と信仰を矛盾させるキリスト教信者を特に批判しました。信者によって、信仰が本質的に非論理的なことに定義されると、キリスト教は内側から滅んでいくこととなるのです。



る書物ですが、理性が無ければ、それを正しく理解することもできません。またキリスト教の教えと神学を論じるために理性が不可欠です。さらに倫理的判断のためにも理性が必要です。結論的に、人間として生きる上で、またキリスト教信者として忠実に信仰生活を送る上で、理性は神から与えられている聖なる賜物なのです。キリスト者が神から与えられている理性を育み、その賜物を生かすことが、成熟した人間になるために重要になります。ウエスレーが、説教で取り上げた理性に関する聖書の箇所も、成長と成熟を強調しています。言うまでもなく、この観点から信仰と聖書を理解すると、信仰と理性が矛盾することはありません。ウエスレーは、理性的なキリスト教信仰を推進しました。これが健全な宗教であり、カルト的宗教に抵抗できる人格を育む信仰でもあります。

理性の利点

ウエスレーによる理性の利点と必要性は、常識的なことから始まりです。まず、一般的に仕事をしていく上で、その指導と業務を果たすために理性が必要です。その次に学問の発展を推進するためにも理性が不可欠です。また、宗教に関してでも、理性が無ければ、それを組織的に理解することができず、その宗教の組織的な基礎も上部構造も存在しないことになるのです。

キリスト教にとって、聖書は神の御言葉と呼ばれ、もつとも権威のあ

理性とメソジスト教育理念

ウエスレーは、理性と学問を優先しました。メソジスト関係学校は、今でもその伝統を受け継ぎ、大切に

しています。そのため、メソジスト関係学校では「学問の自由」を尊重します。欧米の大学の中で、キリスト教によって設立されながらも、信仰と学問の葛藤により、宗教から離れた大学が多くあります。ハーバード大学も含め、米国のアイビーリーグの大学はほとんどそうだとと言えるでしょう。しかし、メソジスト関係大学は、そのメソジストの伝統と繋がりをそれほど失っていません。その大きな理由の一つは、ウエスレーの理念であると考えます。

ウエスレーは、さらに、理性や学問と信仰の均衡を勧めました。それぞれに、それぞれの大切なことがあります。両極端にならないければ、その両方が私たちの人生を豊かにします。信仰と学問の両方をバランスよく用いると、良いシナジー（相乗）効果が生まれ、我々の人生がより豊かになるのです。健全なキリスト教信仰は学問を育み、学問は健全なキリスト教信仰を育むのです。正門のウエスレー像前を通る度、学問と信仰の調和を思い出しましょう。